

第10回年金記録問題検証委員会 終了後座長記者会見（概要）

1. 日 時 平成19年9月25日（火）16時から16時25分
2. 場 所 総務省内記者会見室
3. 説明者 年金記録問題検証委員会 松尾座長
4. 概 要

《松尾座長からの報告》

本日は、まず初めに、社会保険庁による調査結果の報告として、先週末に社会保険庁が発表した「市町村における年金保険料着服事案の第2次調査の取りまとめ」について、また、三層構造問題等に関し、事務局から報告を受けた。その後、事務局が実施している調査の進捗状況として、前回の5,000万件に続き1,430万件と36万件的サンプル調査、社会保険庁の内部監査の仕組みと現状に関する調査及び年金記録の保管状況に関する調査について、事務局より概況の説明を受けた。

市町村における年金保険料着服事案の第2次調査については、社会保険庁が発表した内容を確認したということで、特段追加することはないが、当委員会として必要な調査を行っていききたい。

三層構造問題等については、具体的な問題点として、申請時主義又は申請主義への過度の依存、一人ひとりの年金記録が極めて重要であるという認識の不足、三層構造に由来する組織体質、地方事務官制度や内向きの職員団体の問題等が、今回の年金記録問題の背景にあったということについて、考え方が比較的整理されてきた。ただし、なぜ申請時主義又は申請主義へ過度に依存することになったのか、どうして年金記録の重要性の認識が不足するに至ったのか、という根本的な問題については、社会保険庁として必ずしも十分な検討がなされていないと思われる。社会保険庁にも反省してもらうとともに、当委員会としても今後さらに議論し、掘り下げていく必要があるということになった。

オンライン化されなかった1,430万件等のサンプル調査については、本日はまだ途中段階とのことなので、5,000万件と併せ、詳細は最終報告でお知らせする。

社会保険庁の内部監査体制については、どういう形で内部監査が実施されているか報告があった。内部監査のやり方そのものから年金記録問題に決定的な影響があったわけではないが、内部監査が機能していたかという点では、いくつか不十分な点が見られた。例えば、指摘し、改善し、それをフォローアップするという流れは監査の常道であるが、同じ社会保険事務所に繰り返し同じ指摘がされているという問題があった。

社会保険庁及び市町村における台帳等の保管状況については、これまでに社会保険庁自らも同様の調査を行っており既に問題点が報告されているが、事務局の調査と社会保険庁の調査で保管の実態に大きく異なるというところは見当たらなかった。

今後は、これまでの議論で足りていない点について深めていきたい。

《主な質疑応答》

- 今後のスケジュールとして、あとどの位、開催するか。
 - 相当回数、開催するつもりである。委員の意見交換の場として懇談会も相当開催する必要があると思っている。

- 最終の取りまとめの時期は、10月のいつ頃になるか。
 - 例えば、年金保険料の着服事案については、現在、調査実施中であり、委員会への報告は10月に入ってしまう。システムについても、調査結果の概要について報告を受けているが、いくつか論点を残している。
10月の半ば頃までには案を取りまとめたいというのが、個人的な感覚であるが、意見があれば、また数日とか1週間とかかかることになる。10月10日までに最終案を報告できる状態というのはちょっと難しい。

- 今日の社会保険庁の内部監査に関する調査の取りまとめは、検証委員会の作業部会から報告があったということか。
 - 検証委員会事務局の社会保険庁等に対する調査の報告を受けて議論したというもの。

- 市町村における年金保険料着服事案の2次調査結果や、三層構造問題の説明について、本日、社会保険庁の出席があり、報告を受けたということか。
 - 本日、社会保険庁の出席はなかった。

- 三層構造問題等に関する社会保険庁の資料を、配布していただけないか。

→ 未定稿であり、さらに内容を詰めて固めていくべき資料であることから、この段階で公表資料とすることはできない。いずれ確定稿となれば公表資料に入れたいと思う。

(文責 事務局)